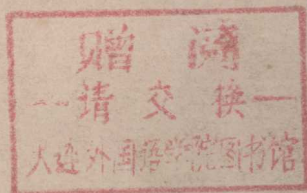


日本語文法小論集



初玉麟
著



大連外國語學院
學術委員會編印



91279498

日本語文法小論集

初玉麟 著

编者说明

为纪念我院校庆二十周年（1964—1984），特编辑、出版外国语言、文学论文集（内部发行）。

外国语言文学、论文集共出版三部：

一、《姚念贻论文集》

二、《日本语文法小论集》（初玉麟 著）

三、《外国语言、文学论文选》（只选新时期以来我院外语教师在国内外公开刊物上发表论文三篇以上或有专著出版者的作品）。

本论文集的出版，反映了我院的部分科研成果，必将起到鼓励学术研究的作用。

大连外国语学院学术委员会

一九八四年十月

もくじ

はしがき

どころか

光の当てられなかった「またとない機会」

行ったり来たりしないで！

―並列助詞「タリ」の解釈の推移をめぐって―

創意的な工夫

―りんごの新しいのがほしい―

「口語法精説」についての覚え書

十の助詞

助詞の「が」と「は」は中国語に全然ない

被雷横走了（雷横に逃げられた）

並立語・並立成分はあるべきか

相互動詞・単行動詞・相関名詞

依存名詞

全面否定

はしがき

中国人の日本語教師としては、常に、よき日本語教材と、教材にでている文法現象を、全面的に、はつきりと説明してくれる参考書との必要を痛感するものであります。

ところが、当今では、よき教材は珍しくありませんが、それにふさわしい参考書はなかなか見当りません。それが故に、日本語教育の現場に立っている教師は、多くの苦勞をしなければなりません。勿論、教材にある文章表現を学生によく習得させるために、色々な参考文献を調べるのは教師の責任ではありますが、参考文献が往々にして、ある学説に片寄り、全面的でない。それで、孤立無援と言ってもよい中国人教師は、やむを得ず、自分で解決案を練たりしては教案を作成しなければなりません。このようなにしてできた教案の中の一部の項目を論述化したのがこの小冊子に収めた拙文です。いずれも試論であって、筆者は大方の忌憚なきご批判を、心から切望し、それによって更に考察を重ねて行くつもりであります。

なお、文を成すに当っては、在中華人民共和国日本語研修センター主任佐治圭三教授のよき助言をいただき、専門家山田泉の恩恵を受け、宮田佳江女史のお世話になり

ました。ここに記して感謝の意を表する次第であります。

一九八四年六月一日野宮孝二捕虜多小次郎襲撃、予け

お、今さる暑也、自合で鹽水家を轉びてして、
社王廟を消如しむわけおなりおせん。こ

初玉麟

どころか

——その接続と意味の説明・分類をめぐって——

初玉麟

ドコロカについては、「現代語の助詞・助動詞」（国立国語研究所）、「外国人のための基本語用例辞典」（文化庁）、「日本文法辞典」では、接続助詞としてとりあげているが、その接続から意味の説明と分類まで再吟味する必要がある。

一 接続

大体の接続助詞の接続については正確且つ統一的な記述があるが、ドコロカの接続についてだけは、まだ定説がないようである。それについて。

「現代語の助詞・助動詞」には

終止形につく。また、形容詞の語幹、体言、その他体言相当につく。

「外国人のための基本語用例辞典」には

動詞・形容詞の④や体言につづく。

『日本文法辞典』には

「名詞及び名詞的なもの、活用語の終止形に接続する。」

とある。諸説紛々として、どれに従っていいかわからない。

次の例文を参照されたい。

○貧乏などころか、大した財産家だ。

(形容動詞の連体形に)

○損をするどころか、かえつてもうけた。

(動詞の連体形に)

○熱いどころか、まるで釜の中にはいつているようでした。

(形容詞の連体形に)

○く死なないどころか、自分で発見した薬をのみ始めてから、く

(助動詞「ない」の連体形に)

○おこらなかつたどころか、ねんごろにいたわった。

(助動詞「た」の連体形に)

○母乳自身に変わりなく、決して毒ではありません。それどころか母乳のある方

が

(代名詞に)

上例から見ても明らかのように、ドコロカは用言及び一部の助動詞の連体形、名詞、代名詞「それ」に接続する。活用語の終止形には接続しないのである。この点について

は、「外国人のための基本語用例辞典」の方が正しいが、形容動詞に全然ふれていないことが玉にきずである。

二 意味の説明と分類

ドコロカに三種類の説明を与えたのは「外国人のための基本語用例辞典」である。まずその説明と例文を列挙して、分析することにする。その705ページに、

1/あることがらを例としてあげ、「くではない」とそれを強く打ち消し、あとのことがらを強く言う場合に使う。／

①あたしは独身（どくしん）どころか、もう子供が三人もあります。

②田中さんは英語どころかフランス語もドイツ語も知っています。

③彼はヨーロッパどころか、アフリカへまで行ったことがある。

2/特にあとのことがらが前のことがらの反対になるような場合に、それを強く言うのに使う。／

④旅行してきましたが、汽車はこむし、雨にはふられるし、楽しいどころか、苦しいだけでした。

⑤きのうは雨がふるところか、くも一つないいい天気でした。

⑥まだ2月なのにさむいどころか、春のようなあたたかさだ。

3/「〜どころか〜ない」の形で、前のことがらを「もちろん〜でない」と打ち消し、それよりも程度のひくいことがらさえ「〜でない」と打ち消す意味を表わす場合に使う。／

⑦山田さんは、へやをそうじするどころか、顔もあらわなくらいのなまけ者です。

⑧あの学生は漢字どころか、ひらがなも書けない。

⑨君には一〇〇〇円どころか、一〇〇円だってかせないね。

その説明1によると、「前件どころか後件」構文の前件にあたる①の「独身」も②の「英語」も③の「ヨーロッパ」も「〜ではない」と打ち消されてしまうことになる。ところが、事実としては、①の「わたし」は確かに独身ではなく、もう子供が3人もあるのであるが、②の「田中さん」は英語もフランス語も知っているのであり、③の「彼」はヨーロッパとアフリカに行ったことがあるのであろう。それで、説明1を正しい説明とすれば、それは①を説明できるが、②③を説明し得ないことになる。

しかし、②③は説明2の例文になることもできない。というのは、②③の前件と後件は「反対になる」ことがらでないからである。また、②③は、「〜どころか〜な

い」の形でないから、説明3の例文にもなれないことは言うまでもない。ここまで分析すると、上記の三つの説明のどれも②③を説明することができないことが分る。結局、②③は架空されたのである。

いま②③をどうあつかうかはさておき、説明1と説明2はその例文に即しているかどうかを吟味することとする。

①④⑤⑥の前件と後件は共存しえない、反対になることがらで、前件が事実として存在する限り、後件の出現が不可能である。後件の成立は前件への打ち消しを前提とする。それで、説明1の「　でない」とそれを強くうち消し、あとのことがらを強く言う」から見ると、①④⑤⑥は説明1の例文となるべきである。ところが、説明2の「あとのことがらがまえのことがらの反対になる」から見ると、①④⑤⑥は説明2の例文であると言ってもよいようである。以上のような分析により、説明1と説明2は、②③を説明しえないばかりでなく、①④⑤⑥にも即していないことが明らかになる。上述の問題点を解決するには、②③に適当な説明を与えなければならぬし、①④⑤⑥にも一つの正確な説明を与えなければならぬ。

筆者の觀察にもとづけば、「前件どころか後件」という構文のドコロカの意味は、次のようになる。

(一) 話し手が、共存しえない、相反する前件と後件について、前件を否定し、後

件を強調する。

①わたしは独身どころか、もう子供が三人もあります。

④旅行に行ってきましたが、汽車はこむし、雨に降られるし、楽しいどころか、苦しいだけでした。

⑤きょうは雨が降るところか、くも一つないいい天気でした。

⑥まだ2月なのに、さむいどころか、春のようなあたたかさだ。

○貧乏などどころか、たいした財産家だ。

○他人を助けるどころか、自分の身が危い。

○損をするどころか、かえってもうけた。

○芝居どころか、試験前で忙しい。

(一)の図解と事実

①②③の前半 話し手

否定

強調

独身どころか、もう子供が三人もある。

(独身でない。子供が三人ある。)

(二) 話し手が程度の異なる前件と後件について、前件に対する限定（潜在のバカリ或はダケ）を否定し、より高度の後件を強調する。

② 田中さんは英語どころか、フランス語もドイツ語も知っている。

③ 彼はヨーロッパどころか、アフリカへまで行ったことがある。

○ 怪我するどころか、命まで危い。

○ 益がないどころか、その上害がある。

○ おこらなかつたどころか、ねんごろに彼をいたわった。

(二) の図解と事実

話し手

否定

強調

英語（バカリ）
どころか、フランス語もドイツも知っています。

（英語を知っている、フランス語を知っている。ドイツ語を知っている。）

(三) 話し手が、「どころか」の形で高程度の前件を否定し、極端低程度の後件（否定表現）を強調する。

⑦ 山田さんはへやをそうじするどころか、顔もあらわないくらいのなまけもの

だ。

⑧その学生は漢字どころか、ひらがなも書けない。

⑨君には一〇〇〇円どころか、一〇〇円だっぴかせないね。

○城どころか砦ですらない。

○帰ってくるどころか、手紙一つよこさない。

○自動車どころか、自動車もない。

(三)の図解と事実

話し手

否定

強調

自動車どころか、自転車もない。

(自動車がない、自転車がない。)

上述の(一)、(二)、(三)がドコロカの文法的職能である。以下この(一)、(二)、(三)をもって「現代の助詞・助動詞」と「日本文法辞典」のドコロカを調べてみることにする。

『日本文法辞典』二四三ページには

(1) 相反する、または程度の異なる事実。状態の一方をあげ、それを否定することによって、他方の叙述を強調する。

①あの状態じゃ子供を育てるところか、お嫁にも行けないわ。

②おまえなんかには、千円どころか、百円だって貸せないぜ。

(2) 「……どころではない」という形で慣用的に用いることがある。

○今は学校どころではない。その日のかてに追われているのだ。

と記述してあるが、次のような欠陥がある。

イ、上述の(一)(二)のような説明がなく、例文もない。

ロ、例文①②はみな(三)の例文であるからその説明(1)にある「相反する」

は例文に即してなくて、不必要である。

「現代語の助詞・助動詞」120～122ページには多くの用例が列挙してある

が、その一部分を次に挙げて分析することにする。

①あれでは味方にひきいれるどころか、逆に敵の陣営におしやるものだ。

②いまや状態は変りました。海外投資の収入どころか、海外からの借金の利子を支払う義務を負ったみじめな国になってしまったのです。

③あれは立派な私刑だ。私は啞然とするどころか恐しくなった。

④二三日どころか場合によれば、永久的にとじこめられてしまうかも知れない。

⑤言っている言葉の一つ一つに、深い意味があるどころか、その言葉通りの意味すらありません。

⑥実際に理屈をいう人に負けるし、公開の席上でもものを喋れないし、文章どころか名前すら満足に書けない。

「しどころ（のさわぎ）ではない」

⑦ウラジオどころの騒ぎではない。

さあ！シベリアだ。炭鉱か伐採か……とにかく日本に還れない。挙つてある

上例を三種類に分類し、①②に（一）、③④に（二）、⑤⑥に（三）のような説明を与えるのが望ましい。しかし、前掲書では、

○かりにある事物を挙げて、大仰にそれを否定し、他の事態の叙述を持ち出す拠り所とする。

という、唯一の記述で三種類の用例を説明しようとするのは残念である。

最後に「しどころ（のさわぎ）ではない」

という形であるが、それはコンテキストにより、次のように（一）か（二）か（三）の意味を表わすことができる。

(一) の例

⑦ ウラジオどころの騒ぎではない。さあ！シベリアだ。
炭鉱か、伐採か……とにかく日本に還れない。

(二) の例

○ 南極では寒いどころのさわぎではない。

(三) の例

○ まだ北海道や九州へも行ったことがないから、外国旅行どころではない。

接続助詞ドコロカには、上述のように、(一)、(二)、(三)と三つの意味があり、用法上の特徴は次の通りである。

(一) の場合

(i) 話し手が否定するのは前件そのものである。

(ii) 前件は後件と反対になる、共存し得ないことがらでなければならない。

(二) の場合

(i) 話し手が否定するのは前件に潜在している限定語バカリのようなもので、前件そのものではない。

(ii) 従って、この場合のドコロカは、「ばかりでない」におきかえられる。